

Kishida, K. - A synopsis of the Japanese spiders of the
genus *Argiope* in broad sense.

日本帝國產のコガネグモ屬諸種に就て

岸 田 久 吉

東京市板橋區練馬南町2丁目3848

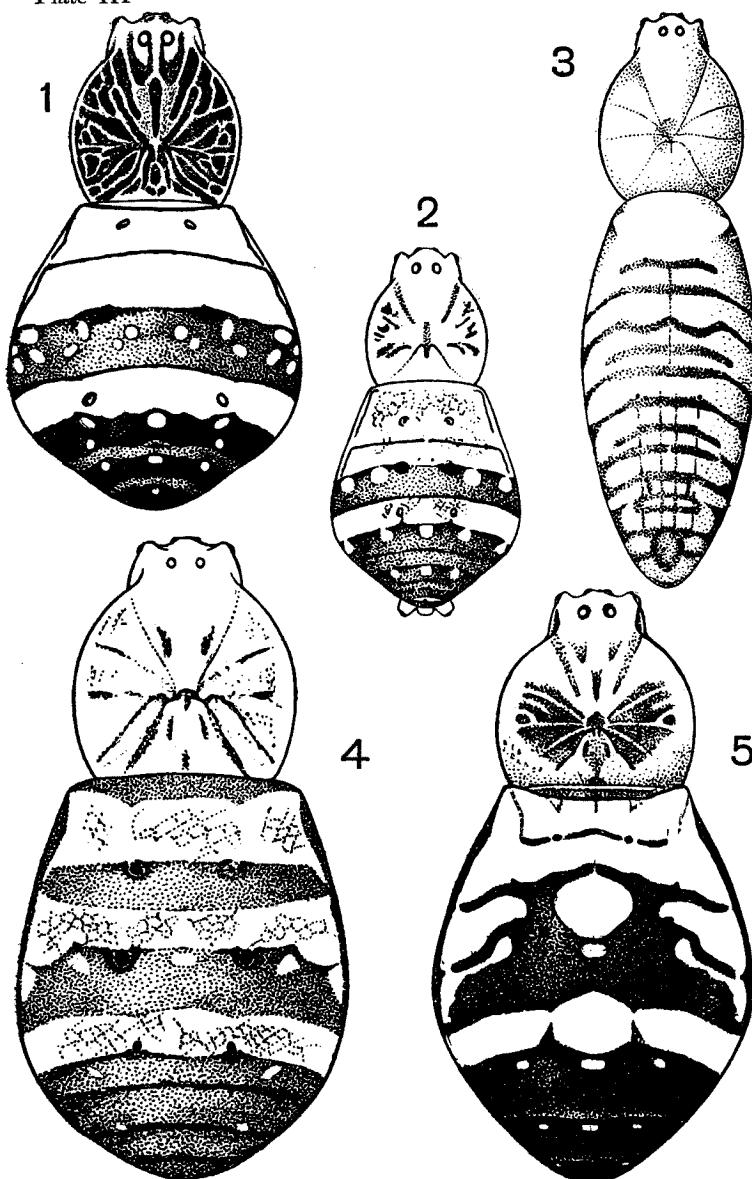
〔昭和11年6月17日受領〕

兎角、雑誌にでも書いてみようと云ふのは、珍しい種類になりがちであるが、世の同好者にとつて必要なのは、むしろ、普通の種類のことである。殊にクモのことでは立派な書籍が乏しいので、よほど長い年月研究をしてゐる人でないと、相當な参考文献が揃つて來ないのが實状である。故に、當分、小生は本誌では誌友各位の便を忍び、ありふれたクモのことを書き立てることにする。

コガネグモ屬 Genus *Argiope* Audouin, 1825はアデア歐洲及アフリカに產する *Argiope lobata* (Pallas, 1782) [sub: Aranea] を模式種とするものである。併し、屬の範圍に就ては、諸家の間に可なり意見がちがつて居り、歐洲の學者は、自國產の種が尠い關係から(?)、大體、屬の範圍を廣くとつて居るし、アメリカの學者は、屬を狹めて、謂わゆる細分主義を以て立つてゐる。歐洲の學者でも、アメリカのコガネグモを研究する時には、細分主義をとつて居る人もある。此のこととは最初におことわりしておかねばならぬことである。

さて、小生は屬の範圍を先づ廣く見て、その特性を列記するものであるが、或る學者の如く、オニグモ屬までもコガネグモ屬の中に含ませる程、大きくは取扱はない。オニグモ屬のものは、歩脚の蹠+跗は膝+胫よりも短いか(稀に)

Plate III



(K. Kishida et T. Seki guchi del.)

日本農業研究報告書 第三卷 第一號

同長であるかであるのに拘らず、コガネグモ属の種類では、常に、蹠跗の合長は膝脛の合長よりも長いのである。殊に、此の歩脚にあらはらた特徴は、♀では確實なものである。オニグモ属の中眼域即ち直眼と第三間眼で作つてゐる區域は、長さがたいして幅を凌いで居らず、前邊は大抵後邊よりも廣いのであつて、甚だ稀有の場合として、前後兩邊が同幅になつて居る。然るに、コガネグモ属では中眼域の長さは必ず幅よりも遙かに優つて居り、前邊は後邊よりも著しく狹くなつて居る。此の眼にあらはれた特徴は、舊式の記載法であらはせばオニグモ属の後列は弱く後曲()であり、後列中眼は前列中眼から著しくは離れてゐないけれども、コガネグモ属の後列は強く後曲して居り、後列中眼は前列中眼から遠く後方に離れてついてゐると云ふことになる。

屬徴を略記すると、背甲はもちろん中凸ではあるが、上から強く押付けられた様になつて居り、中窓は♀では横向〔實は前曲〕、♂では大吹狀乃至多少縦溝状になつてゐる。前方特に頭部に狹くなつてゐることは、♀では顯著であるが、♂では左程でも無い。眼域は頭部の始ど全幅を占めてゐる。直眼は丸くて前方を指し、互に分れて居る。間眼は外曲()した弧上に立ち、互の大きさも間隔も一樣ではない。第二間眼列が最も廣く、第三間眼列が最も狭い。各側の間は第一×第二が甚だ狭く、第二×第三が最も廣い。直眼は第一間眼と同一直線上又は稍々後方に立つて居り、後者との距離は直眼間よりも稍大きい。第一間眼は第二間眼よりも小さい。中眼域は既記の如く長さが明かに幅よりも優り、前邊は後邊よりも狭いことが普通であるが、往々又同じ位のこともある。額は直眼の直徑よりも前後に長いが、直眼間よりはいく分小さい。上顎は前牙堤にも後下堤にも數齒を具へてゐる。♀の觸肢端には、齒有る爪を1本具へて居る。歩脚は、オニグモなどに比べると長い方であつて、少くとも腿、脛、蹠の3節には多くの刺をもつてゐる。跗端には、2本の有齒上爪と無齒で膝曲した1下爪を有する。腹部は輪廓が一様で無いが、幾分上下から押付けられた形をしてゐる。蜘蛛は短太い3対から出來てゐる。♀は常に♂よりも遙かに大きい。

コガネグモ属は、主として全世界の熱帶、亜熱帶の産であるが、往々温帶にも棲息してゐる。兩性共造網性である。網種は普通、丸網であるが、時によつては同一種であつても、尋常な丸網の内外に粗絲をひきまわして、三重の網を作つてゐる。卵嚢は丸網の一部にかけることもあり、又、多少離れて全く別の所にかけてゐることもある。その構造は種類によつてちがふ。

次にコガネグモ属が細分される場合の概要を摘要しておきたい。元來、此の始はカレス、ルードビヒ、コツホ(1835)あたりからであるが、體系化されたのは、中央アメリカの生物學に英人ピカード、ケンブリッジ(1903)がクモを記した時であつて、アメリカの學者は、今日も之を宗としてゐる。岸田(1931)はどうせ細分するからには、形態學的に重要な點を取つて、判然とやつた方が一層可いと思つて、此を次の様にしたならばと提言したわけである。

コガネグモの細分式屬名検索表

A 腹部前端は急に直截してはゐない。周縁は丸い。

B ♀の胃外域は、短いながらも籠状になつて、後方に突出してゐる。…

ミランダ属 *Miarand*

BB ♀の胃外域は縦走する中隔を有する。

C 胃外域は長さが幅にまさり、中隔中程は狭い。……………アウスツラ

ルギオペ属 *Austrargiope*

CC 胃外域は長さが幅にまさらず、中隔は全體同幅である。……………

メタルギオペ属 *Metargiope*

AA 腹部前端は直截して居る。

B 腹部後半の周縁は丸い。

C 腹部背面は刺毛を缺いて居る。

D ♀の胃外域は縦走する中隔を有する。……………コガナルギオペ属

Coganargiope

DD ♀の胃外域は中隔を缺き、却つて縦走する中溝を有し、その兩側

は高い。……………ヘテラルギオペ属 *Heterargiope*
 CC 腹部背面は刺毛を有する。♀の胃外域は、縦走する中隔を具へて居る。……………ケタルギオペ属 *Chaetargiope*
 BB 腹部後半の周縁は深く裂け、時に葉状を呈する。♀の胃外域は縦走する中隔を有する。……………アルギオペ属 *Argiope*
 次に細分式の属名を列挙し、それに属の模式種 Genotype species 及要徵を附記してみよう。

I. ミランダ属 Genus *Miranda* C. L. Koch, 1835 [Deutsch. Ins. (Panzer) Heft 128, S. 15]

模式種 *Miranda bruennichii* (Scopoli, 1763) [sub: *Aranea*]

要 微 腹部がほど長く、すべての周縁が丸い。背面には多數の黄帯と黒帯を有する。♀の胃外域は笠状の後出突起を具へて居る。♂はもちろん♀よりも著しく小さいが、體形も斑紋も大してちがづて居ない。

附記 1. わがナガコガネグモは此屬のものである。

II. アウストラルギオペ属 Genus *Austrargiope* Kishida, 1931 [Lansania
vol. 3, No. 29, p. 129]

模引種 *Austrargiope plana* (L. Koch, 1867) [sub: *Argyopes*]

要徴 ミランダと外見は似て居るが、各6本の黄帯と黒帯を有し、黒帯の太さには廣狭の分化が認められる。又、周縁は多少いくつかにくびれる傾を示して居る。♀の胃外域には縦走する中隔が明かに見える。

附記 2. 帝國產ナガマルコガネグモの1種は此屬のものである。

III. メタルキオペ属 Genus *Metargiope* F. O. Pickard-Cambridge, 1903
 [Biolog. Centr. Arner., Arachn., Aran., Vol. 2, 3 M., p. 451]

模式種 *Metargiope trifasciata* (Forskal, 1775) [sub: *Aranea*]

要徵 ミランダによく似て居るが、黄帶、黒帶は少く、後方では、特に黒帶が廣大になつてゐる。♀の胃外域は長さが幅にまさらず、中隔は全體を通じて

殆ど同幅である。

附記 3. 帝國產は 1 種も知れて居ない。

IV. コガナルギオペ屬 Genus *Coganargiope* Kishida, 1931 [Lansnia
Vol. 3, No. 29, p. 129]

模式種 *Coganargiope amoena* (L. Koch, 1877) [sub: *Argiope*]

要徵 腹部は短廣になり、外廓は前縫直截し、他の周縫が丸く、往々全形が角の丸い 5 角形を呈する。背面には黃帶黒帶があり、後部は廣大な黒帶によつて占められて居る。♀の胃外域は縱走する中膈を有する。

附記 4. 帝國產のコガネグモ數は、大抵此の屬のものである。

附記 5. 此の屬は腹部背面の斑紋と ♀ の胃外域の中膈の形狀によつて、3 亞屬に分たれる。

コガナルギオペ屬の亞屬名検索表

A ♀ の胃外域は、長さが幅に劣つて居ない。

B 中膈は胃外域の前端に始まり、且つ甚だ狹長である。腹部背面の前部の黒帶はほそく、中間の數帶は、中央で複雑に網化してゐる。.....

メサルギオペ亞屬 *Mesargiope*^e

BB 中膈は、胃外域の前半では、箕状に凹み、その後外縫だけが高く疵状を呈する。腹部前半には先づ同幅の 3 黒帶 3 黄帶を有する。.....

コガナルギオペ亞屬 *Coganargiope*

AA ♀ の胃外域は長さが幅よりも明かに劣つて居るし、中膈は後方をさして傾いて居る。腹部の斑紋は、前方の黒帶は最もほそく、後のもの程太い

ミクラルギオペ亞屬 *Micargiope*

IV. 1. メサルギオペ屬 Subgenus *Mesargiope* Kishida, 1931 [Lansnia
Vol. 3, No. 29, p. 130]

亞屬の模式種 *Coganargiope* (*Mesargiope*) *aetherea* (Walckenaer, 184)
[sub: *Argyopess*]

要微 腹部は、先づ5角形であるが肩が稍々角張つてゐる外、他の角は丸い。背面の中央には、3—4黒帯が集まつて作つたらしの網紋がある。それより前にはほそい黒帯を見るだけである。♀の胃外域は長くて、前後兩端をつなぐほど長い中隔を有する。

附記 6. 帝國産テウガタコガネは、此の亞属のものである。

IV, 2. コガナルギオペ亞属 Subgenus *Coganargiope* Kishida, 1931
[supra]

亞属の模式種 *Coganargiope (Coganargiope) amoena* (L. Koch, 1877)
[sub: *Argiope*]

要微 腹部の外形は、前端が直戦してゐる外、他は大して特徴を示してゐないが、老成したものでは、往々角の丸い5角形を呈する。又背面の前半には相當太い2黒帯、3黄帯を具へて居る。

附記 7. 帝國産のコガネグモが此の亞属のものである。

IV, 3. ミクラルギオペ亞属 Subgenus *Micrargiope* Kishida, 1931
[*Lansania* Vol. 3, No. 29. p. 130]

亞属の模式種 *Coganargiope (Micrargiope) minuta* (Karsch, 1879) [sub: *Argiope*]

要微 腹部の外廓は、角の丸い5角形であつて、特に前端は直戦して居る。その背面前方は3黄帯と2黒帯があり、黄帯は殆ど同じ位の太さであるが黒帯は前のは線状であり、後のは太い。此の太い黒帯や後方には暗色部に小斑を含んでゐる。♀の胃外域は長さが著しく幅よりも小さく、且つ前後2斜面に分たれてゐて、前面は前下方を指し、その後縁と後下方を指してゐる。後面を縦走する中隔は連續してゐる。

附記 8. 帝國産のコガタコガネグモ・アミメコガネグモ・ムシバミコガネグモは、此の亞属のものである。

V. ヘテラルギオペ属 Genus *Heterargiope* Kishida, 1931 [*Lansania*

Vol. 3, No. 29, p. 130]

屬の模式種 *Heterargiope maja* (Boesenberg et strand, 1906) [sub: *Argiope*]

要徴 腹部の外廓は、長い卵状である。背面には太い 6 黄帯と 5 黑帯を有つて居る。♀の胃外域は中央を縦走する廣溝を有し、その左右兩側は半月形に高まつ居る。

附記 9. 帝國產ミゾコガネグモは、此の屬のものである。

VI. ケタルギオペ屬 Genus *chaetargiope* Kishida, 1931 [Lansania
Vol. 3, No. 29, p. 130]

屬の模式種 *Chaetargiope picta* (L. Koch, 1871) [sub: *Argiope*]

要徴 腹部の外廓は、大體角の丸い 5 角形であるが、前端だけは直截し、且つ成熟したものでは、肩は尖出してゐる。背面の斑紋は、可なり變化があるけれども、模式種では大體黒褐色であつて、前部には太い 1 白帯があり、次にはそい 1 黑帯が來て居る。次に 3 大白點を含む 1 黑帯となつて居る。その次にはそい白帯と有斑の暗帯が交互してゐる。此の外に背面には短いものではあるが、明かに刺毛を生じてゐる。♀の胃外域には縦走する中隔がある。

附記 10. 帝國產は 1 種も知れてゐない。

附記 11. 此の屬は腹部背面の刺毛の形狀斑紋と ♀ の胃外域の形狀によつて 2 亞屬に分たれる。

ケタルギオペ屬の亞屬名検索表

Α ♀ の胃外域は長幅相等しい。腹部の背刺は小砧上に立つもののみであるし
最前の黒帯はほそく、後位のものは太い。……………ケタルギオペ亞屬

Chaetargiope

ΑΑ ♀ の胃外域は長さは、明かに幅よりも劣つて居る。腹部の背刺は砧上に
立たず、且つ少くて疎らに生じて居る。太い 4 黑帯 3 黄帯を飾つてゐる。

ネアルギオペ亞屬 *Neargiope*

VI, 1. ケタルギオペ亞屬 Subgenus *Chaetargiope* Kishida, 1931
supra].

亞屬の模式種 *Chaetargiope* (*Chaetargiope*) *picta* (L. Koch, 1871) [sub:
Argiope]

要徵 腹部背面の刺毛が小砧上に立ち、且つ多數に在つて、規則正しく並んで居る。斑紋は白帶と黒帶が交互し、後者中に大點を含む。白帶は、前位のが太く、黒帶は後位のが太い。♀の胃外域は長幅似たものであつて、中隔を有する。

VI, 2. ネアルギオペ亞屬 Subgenus *Neargiop* Kishida, 1931 [Lansa-
nia, Vol. 4, No. 29, p. 131]

亞屬の模式種 *Chaetargiope* (*Neargiop*) *regalis* (L. Koch, 1871) [sub:
Argiope]

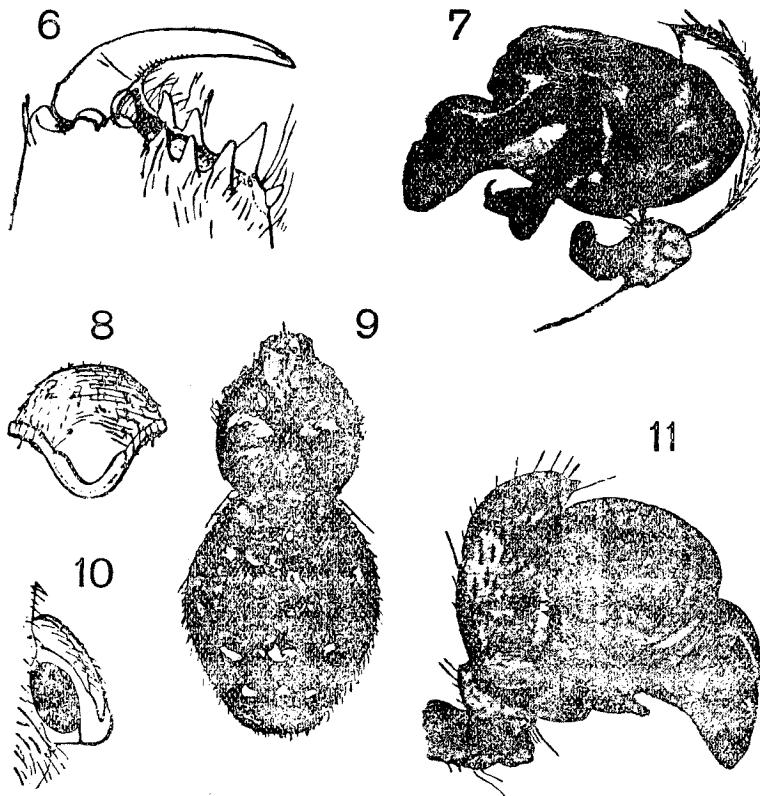
要徵 腹部の概形はケタルギオペと似てゐるが、背面の刺毛は砧を缺いて居るし、數が少く、疎生してゐるに過ぎない。併しながら、斑紋は3白帶・4黒帶を有し、その排型はコガナルギオペ亞屬に酷似して居る。その外、♀の胃外域はミクラルギオペ亞屬によく似たものである。

VII. アルギオペ屬 Genus *Argiope* Audouin, 1825 [Savigny's Egypt.
Ar., 22, p. 328]

屬の模式種 *Argiope lobata* (Pallas, 1772) [Sub: *Aranca*]

要徵 腹部背面は上から見ると、少くともその後半に數個の缺刻を有し、往々片狀又は葉狀を呈する。前半も多くは多角形（梯形……など）を呈し、後方がひろがり、前端は直微するか又は後曲して居り、その肩は往々尖出する。♀の胃外域は角の丸い菱形であつて後方の過半には著しい中隔が在る。中隔の左右兩側はくぼんで居るし、中隔の前方もいく分くぼんで居る。

附記 12. 帝國產は1種も知れてゐない。



アミメコガネグモ *Caganargiope (Microargiope) reticulata*. (K. Kishida del.)

6. 上顎, 7. ♂触肢端, 8. ♀の胃外域(下面観), 9. ♀成
10. ♂の右側面観, 11. ♀の右側面観

帝國産コガネグモ類は、判然してゐるもののが8種である。此の外に、尙ほ今後見出されるものが必ずある。

8種の内で、日本特産は、コガネグモ・コガタタコガネグモ・アミメコガネグモ・ミゾコガネの4種である。次に、全北系はナガコガネグモ1種きりであ

るが、残は周太平洋系が1種(ムシバミコガネグモ)、東洋系が2種(ナガマル及チウガタコガネグモ)である。

地名 蜘蛛名	沿	滿	北	南	樺	千	北	朝	本	四	九	小	内	琉	臺	ヒ	印
	海	支	支	海			笠	南								リ	度
ナガコガネグモ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
ナゴマルコガネグモ	+	+	+	+
チウガタコガネグモ	+	+	+	...	+	+	+
コガネグモ	+	+	+
コガタコガネグモ	+	+	+
ムシバミコガネグモ	+	+	+	...
アミメコガネグモ	+
ミヅコガネグモ	+

日本帝國產コガネグモ類の分布による種名検索表

A 腹部はほそ長くて脊に多數のほそい黒帯がある。

B 脊の黒帯の太さはよく似てゐるし黄帯も先づ似てゐる。……ナガコガネグモ

BB 脊の前方過半では黄帯は黒帯よりも明かに太い。……ナガマルコガネグモ

AA 腹部は、短廣で、長圓形・5角形又は6角形を呈する。

B 腹部の脊の前方に第一黒帯が在る。

C 胃外域には、中隔が在る。

D 第一黒帯はほそい。

E 背甲上は、平凡で、特殊の斑紋は無い。……コガタコガネグモ

EE 背甲上には、特殊な斑紋がある。

F 背甲上には、殆ど満面に、蝕痕状の焦茶斑がある。腹部の第一黒帯は、完全につないで居り、その後方に黒帯の網化を見ない ムシバミコガネグモ

FF 背甲上には、蝶形の灰茶斑がある。腹部の第一黒帯は、點と條との一線上に排列したものであり、その後方には美しい黒帯の網化が見られる。 チウガタコガネグモ

DD 第一黒帯も太い。 コガネグモ

CC 胃外域には、中隔を缺き、その該當部位に、廣い中溝が在る。 ミヅコガネグモ

BB 腹部の脊には明瞭な黒帯が無く、全面にこまかい網目状の斑紋がある。 アミメコガネグモ

日本帝國産コガネグモ類各種の要徴

I. ナガコガネグモ *Miranda bruennichii* (Scopoli, 1763) [sub: *Aranea*]
[Ann. V hist. nat., p. 125]

主な異名 1) 1772—*Aranea bruennichii* Scopoli ; 2) 1773—*Aranea speciosa* Pallas ; 3) 1776—*Aranea zebra* Sulzer ; 4) 1787—*Aranea formosa* Cyrill ; 5) 1787—*Aranea pulchra* Razoum ; 6) 1789—*Aranea fasciata* Olivier ; 7) 1789—*Aranea caspia* Gmelin ; 8) 1790—*Aranea phragmitis* Rossi ; 9) 1805—*Epeira fasciata*, Walckenaer ; 10) 1826—*Segestria pulchra*, Risso ; 11) 1827—*Argiope fasciata*, Audouin ; 12) *Miranda transalpina* C. L. Koch ; 13) 1839—*Nephila transalpina* C. L. Koch ; 14) 1868—*Argiope bruennichii*, Thorell.

分布 全世界の極周地方に弘布する種類である。日本帝國でも、謂はゆる全北日本と稱せられる地方には、大抵棲息してゐる。樺太から見出されてゐるのは面白い。千島は南千島だけに棲息してゐるのである。

♀の色彩 腹部の脊には白一黄の地に13—16のほそい黒帯があつて、その内の1—2は波状を呈するし、3—4ヶ所には前後の2—3帯が網化してゐる。

II. ナガマルコガネグモ *Austrargiope aemula* (Walckenaer, 1837)

[sub: *Epeira*] [Hist. nat. Insectes, Apteres, t. 2, p. 118]

主な異名 1) 1837—*Epeira aemula* Walckenaer; 2) 1881—*Argiope aemula*, Thorell; 3) 1892—*Argiope trivittata* Karsch (melanistic form)

分布 國内では、琉球南部（沖縄・石垣・八重山）・臺灣・紅頭嶼から採集された。國外ではヒリピン・オーストロマレーシア・インドマレーシア・南支那・ビルマ・印度・ニコバル群島・セイロン……等に弘布してゐる。

♀の腹部の形、成大したものでは長さ:幅=3:2である。外廓は角形にならず、長卵形であるが、前端は多少截形に近づいてゐる。胃外域は長>幅であつて、後方に丸く突出して居る。

♀の體長 成♀で20—25mm.

♀ 色彩 腹部の脊は白黄の地に、多數のほそい黒帯を有し、その内、後方のものは、殊に波状になり、且つ密通して、往々融合する傾を示して居る。

III. チウガタコガネグモ *Caganargiope (Mesargiope) aetherea* (Walck-)

[sub: *Epeira*] [Hist. nat. Insectes, Apteres, t. 2, p. 112]

主な異名 1) 1837—*Epeira aetherea* Walckenaer; 2) 1881—*Argiope aetherea*, Thorell.

分布 ワルケホールは、ニューギニア産によつて、本種を建てた。オーストロマレシアからセレベス・ヒリピン・臺灣・琉球・九州・四國・本州にかけて弘布してはゐるが、何れの地方でも、「稀薄な存在」と云はれる棲息状態である。本州では今日のところ、埼玉縣が既知の北限である。

♀の色彩 腹部の地は黄色で、前方²では殊によく地があらはれてゐる。第一黒帯が褐色の断續帶であり、次に4帯が融合して網化してゐる點が著しい。

腹面の黄白斑は、行字状であり、その各割は明かに分離してゐる。背甲の蝶形斑は、アルコール漬にしてから見えて来る。

IV. コガネグモ *Coganargiope* (*Coganargiope*) *amoena* (L. Koch, 1877) [sub : *Argiope*] [Verhandl. Zool-bot. Gesellsch. Wien, Bd. 27, S. 735]

主な異名 1) 1877—*Argiope amoena* L. Koch. ♀の色彩、腹の脊に3黄帯と4黒帯が見られるが、此表現の第一黒帯は、實は前端のものであつて、脊のものとは云はぬ方がよい。どちらにしても、此帯も次の齒の第一黒帯も可なり太い。一體に黄帯は前位のが太く、黒帯は後方のが太い。

V. コガタコガネグモ *Coganargiope* (*Micrargiope*) *minuta* (Karsch, 1879) [sub : *Argiope*] [Verhandl. d. naturhist. Vereins d. preuss. Rheinlande und Westfalens, JG. 33, S. 67, 63]

主な異名 1) 1879—*Argiope minuta* Karsch.

分布 今日のところ、内地の特産であるが、稀薄な存在である。

♀の色彩 黄が淡く、白が勝ち、黒帯も淡くて、大部分は赤ばんでゐる。

VI. ムシバミコガネグモ *Coganargiope* (*Micrargiope*) *keyserlingi* (Karsh, 1878) [Sub : *Argiope*] [Zeitschr. f. ges. Naturw., Bd. 51, S. 108]

主な異名 1) 1871—*Argiope aetherea*, L. Koch. Nec *Epeira aetherea* Walckenaer; 2) 1878—*Argiope keyserlingi* Karsch.

分布 オーストラリア・ニューギニア・オーストロマレーシア・ヒリビン・紅頭嶼(平山修次郎氏採集)・臺灣(臺東—岸田; 蔴—仲辻耕治氏; 新高山—王雨郷氏)・石垣島(岩崎卓爾氏)。謂はゆる周太平洋種である。

♀の色彩 一見、チウガタコガネと同大・似色であるが、黄地は白ばみ、黒帯の後半は朱ばんでゐるし、第一黒帯は連續帶であつて、断続性ではない。腹面の黄斑は、井字状であつて、中線の所だけが切れ、他はつづいてゐるし、ほそ

い。アルコール漬にすると、背甲の蝕痕状斑は、全面を占めて來るのが著しい。

♀の胃外域 チウガタコガネとはちがつて、長さく幅があり、一寸見にくく位に短い中隔を有するに過ぎない。

VII. アミメコガネグモ *Caganargiope (Micrargiope) reticulata* (Kishida, 1919) [Sub: *Argiope*] [Araneae pelewensis, p. 6]

主な異名 1) 1919—*Argiope reticulata* Kishida.

♀の測定 全長 12.5mm. 腹部の長さ 8.0mm. 同上の幅 5.5mm.

♀の腹部の色彩 脊の地は淡黄色。中線から左右亞側線までの間には、無数の多角形斑紋が密布してゐる外、2対の暗褐色及大體褐色の横向のほそい帶状斑がある。もつとも後方 $\frac{1}{3}$ に於ては、網紋を作つてゐる。胃外域は黒色。肺及その前方は淡灰色。胃外域から蜘蛛までは、蜘蛛部の直徑に等しい幅を以て、褐色になつて居り、前方 $\frac{1}{3}$ の兩側に、3対の横に長い橢圓形の灰白斑があり此所に白毛を生じてゐる。此の部分の兩側には、北字状の廣い白斑が残されて居り、その外側は美しい褐色になつてゐる。蜘蛛部は紅褐色である。

VIII. ミゾコガネグモ *Heterargiope maja* (Boesenberg et strand, 1906)
(Sub: *Argiope*) [Abhandl. d. Senckenb. Naturf. Gesellsch., Bd. 30, S. 201, 202]

主な異名 1) 1903—*Argiope maja* Boesenberg et Strand.

分布 横濱産が記載されてゐるきりである。

要徴 腹部の脊に6黄帶5綠次帶があることと♀の胃外域に中隔が無く、廣い中溝を有することが著しい。

圖 版 說 明

1. ムシバミコガネグモ *Caganargiope (Micrargiope) keyserlingi*.
2. コガタコガネグモ *Caganargiope (Micrargiope) minuta*.
3. ナガコガネグモ *Miranda bruennichi*.
4. コガネグモ *Caganargiope (Caganargiope) amena*.
5. チウガタコガネグモ *Caganargiope (Mesargiope) aetherea*.